

⑫公開実用新案公報 (U)

昭54—99241

⑤Int. Cl.²

B 60 H 3/00

F 24 F 13/06 //

B 60 N 1/00

識別記号

⑤日本分類

80 K 4

90 A 123

80 B 6

庁内整理番号

6968—3L

6968—3L

7438—3B

④公開

昭和54年(1979)7月13日

審査請求 未請求

(全 1 頁)

⑤④自動車のクッションにおける涼風、温風を出す背もたれ

三重県北牟婁郡海山町船津1531
の4

②①実 願 昭52—174627

②②出 願 昭52(1977)12月25日

②③考 案 者 高橋三晴

⑦⑦出 願 人 高橋三晴

三重県北牟婁郡海山町船津1531
の4

⑦⑧代 理 人 弁理士 今村幸雄

⑤⑦実用新案登録請求の範囲

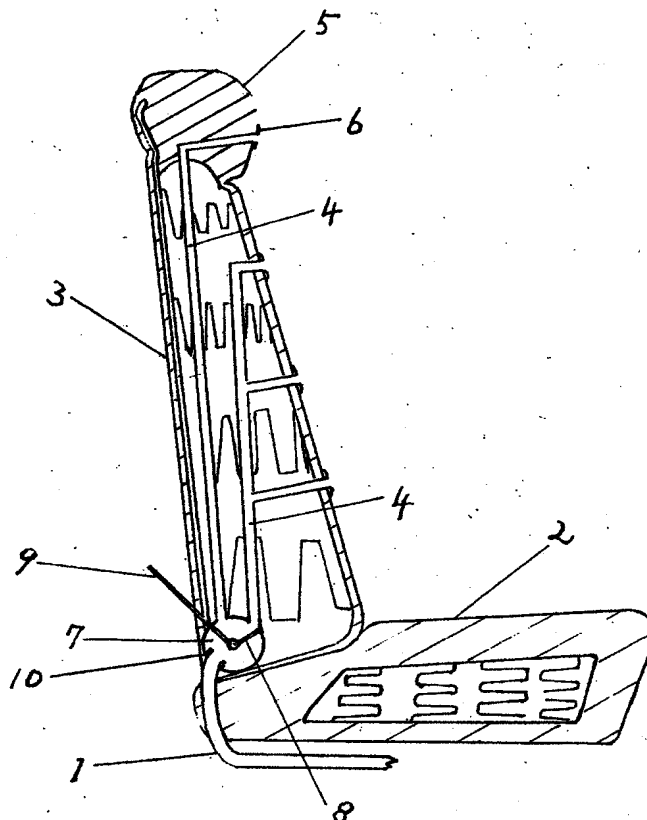
運転手席下方のガイドチューブ1を折曲せしめ座席シートを通貫せしめたる後、背もたれ3の下部において二本のチューブ4に分岐せしめて背もたれ中に立て、二本の中、一方は背もたれの上部から運転手の背筋へかけて更らに二本乃至三本に再分岐せしめて切曲し背もたれの前面に開口せしめてノズルとし、他の一方はヘッドレストの内部まで達せしめたる後、前面に開口せしめてノズルとし、ノズルの開口部分にはいずれも扁平な縁部

を有せしめるものとし、ガイドチューブ1とそれより二本に分岐せるチューブ4との連結部に切換レバー7を装着したる、自動車のクッションにおける涼風、温風を吹きつける背もたれ。

図面の簡単な説明

図面は本考案の側面中央縦断面を示すものである。

1……ガイドチューブ、4……ガイドチューブより分岐せられた二本のチューブ、7……切換レバー。





(3,000円)

実用新案登録願

昭和52年12月25日

特許庁長官 熊谷 善二 殿

1、考案の名称

自動車^{ジドウシャ}のクッションにおける^{リウフウ}涼風、^{カンブウ}温風を出す^{ダシ}装置^セもたれ

2、考案者

実用新案登録出願人と同じ

3、実用新案登録出願人

住所 ^{ミエケンキタムロクシミヤマ33ウナツ}三重県北牟婁郡海山町新津 1531の4

氏名 ^{タカハシミツハル}高橋 三晴

4、代理人 郵便番号 515

住所 三重県松阪市町町 1383 電話0598-2-2520

氏名 6544 弁理士 今村 幸雄

5、添付書類の目録

- | | |
|----------|----|
| (1) 明細書 | 1通 |
| (2) 図面 | 1通 |
| (3) 願書副本 | 1通 |
| (4) 委任状 | 1通 |

52 174627 ✓

明 細 書

1、 考案の名

自動車のカッションにおける涼風、風扇を吹きつける背もたれ。

2、 実用新案登録請求の範囲

運転手席下方のガイドチューブ1を折曲せしめ座席シートを通せしめたるを、背もたれ3の下部において二本のチューブ4に分岐せしめて背もたれ中に立て、二本の中、一方は背もたれの上端から運転手の背筋へかけて車内に二本乃至三本に再分岐せしめて切曲し背もたれの前面に開口せしめてノズルとし、他の一方はヘッドレストの内部まで達せしめたる後、前面に開口せしめてノズルとし、ノズルの開口部分にはいずれもは平な風扇を有せしめるものとし、ガイドチューブ1とそれより二本に分岐せるチューブ4との連繋部に切曲レバー7を設けしたる、自動車のカッションにおける涼風、風扇を吹きつける背もたれ。

3、 考案の作用を説明

自動車の運転中、運転手等の座席より涼風

或は涼風を受ける装置は一般に備へられて居る。然しながら、運転中の疲労を回復し、或は睡魔を撃退しその他不愉快な汗むらを無くし爽快ならしむるには、むしろ背後より、特に首筋、後脛部等局部的に涼風なり涼風なりを、背側に床じて吹きつけるのが効果的である。本考案は、かかる吹きつけを可能ならしめるクッションの背もたれにかかるものである。

本考案の構成は一般的に使用せられて居る運転手前面の送風装置を利用するものであつて、涼風用として強制ベンチレーターのホース、涼風又は涼風用として付カーモーターのホースに運転手席の下方で接続せしめたる本考案のガイドチューブ1を側面に示す如く上方に折曲せしめ、座席シート2を通過せしめたる後、背もたれ3の下部において二本のチューブに分岐せしめて背もたれ中に立て、その中一方は背もたれの上部即ち運転手の首筋に相当する高さから背筋へかけて更に二本乃至三本に再分岐せしめて折曲し、背もたれの前面に開口せしめてノズルとし、他の一方は背上部

のヘッドレスト 5 の内部まで達せしめたる後、運転手の後頭部に対応する位置においてその前面に開口せしめてノズルとする。ノズルはその開口部分即ち吹き出し口の周囲に扁平なる縁部 6 を有せしめ、これによりチューブが背もたれの内部に嵌没するのを防ぐものとする。

ガイドチューブ 1 と、上記の二本のチューブ 4 との連結部に、切換レバー 7 を装着し、望む方のチューブへ送風するようバルブの切換を可能ならしめる。切換レバー 7 は図面に示す通り、バルブ 8、ハンドル 9、バルブストップ 10 をもつて構成する。

本考案は、一般に自動車に備へられて居る送風機構を利用するものであるから実施の爲の費用の僅少で足ることと共に取付作業も極めて容易である。一般の送風機構によつて運転手席全体の気候的条件を良好ならしむることは出来ても、その結果返つて睡魔を誘う場合のあることも亦少しとしない。本考案によつて、後方から然も最も有害な部分へ局所的に吹きつけると、睡魔を撃退し疲労

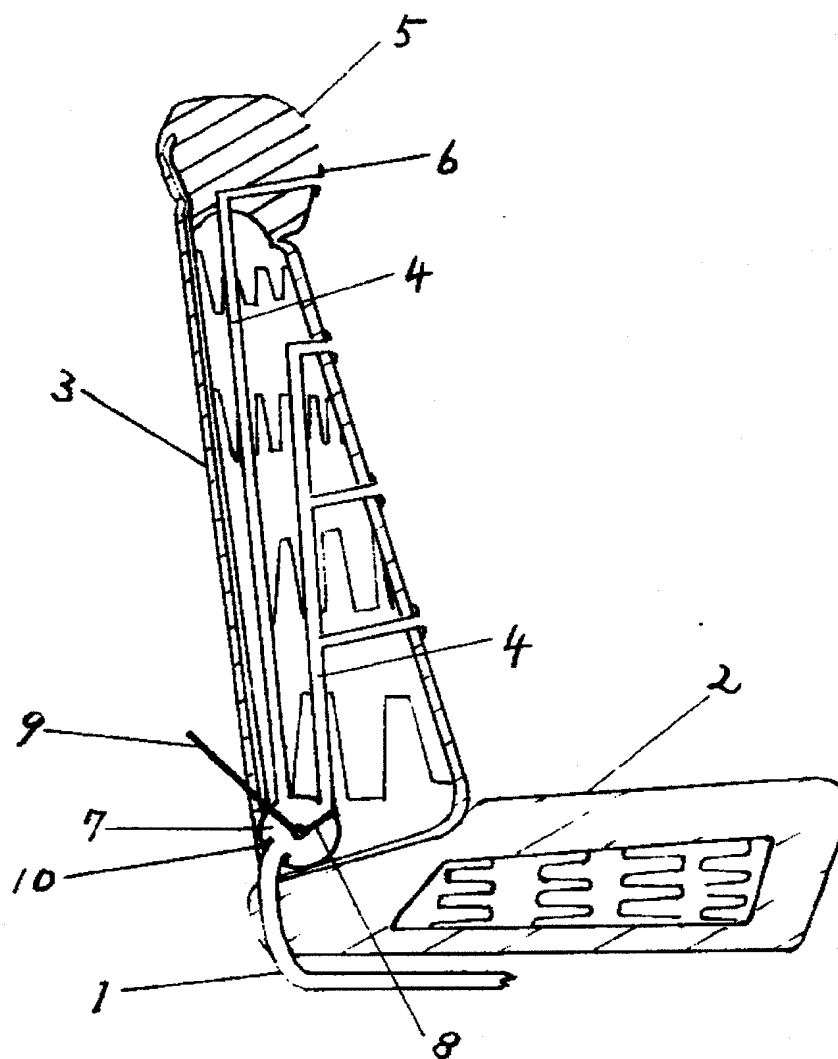
肺を取り除く効果は格段に著しいものがある。その他、不愉快な汗むら無くして爽快な運転の継続^{と可能}ならしめる効果も著しい。これ等はすべて、身体^{全身}の局所的なあんま、マッサージ等が特効を示すのと同様であつて、局所的な吹きつけによつて得られる効果である。

4、図面の簡単な説明

図面は本発明の平面中央線断面を示すものである。

1・・・ガイドチューブ。4・・・ガイドチューブより分岐せられた二本のチューブ。7・・・切換レバー。

実用新案登録出願人 高 橋 三 郎
代 理 人 弁 理 士 今 村 幸 雄



99241

實用新案登錄出願人 高橋三晴
代理人 弁理士 今村幸雄